



Title	新製品 生おたふく かぜワクチン
Author(s)	高久, 慶典
Citation	makoto. 1981, 34, p. 2-2
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86085
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

新製品 生おたふくかぜワクチン

財団法人 阪大微生物病研究会

高久 慶典

科学の進歩は近年、めざましいものがあります。しかしウイルス病に有効な医薬品は、まだ殆んどないのが現実です。ワクチンを接種して、体に免疫抵抗力をつけ、ウイルス病から守る以外に方法がありません。

この度、我が国で初めてのおたふくかぜワクチンが完成しました機会に、おたふくかぜの臨床とそのワクチンを紹介いたします。

おたふくかぜの臨床

おたふくかぜは、発熱をともなつて耳下腺を侵すのみでなく、唾液腺・甲状腺・脾臓・胸腺・睪丸・卵巣等の内分泌系や神経系などを侵すことも稀ではありません。これらの合併症の中で特に思春期からの男性に感染すると、かなり高率に睪丸炎を起し無精子症を来すこともあります。また、女性では卵巣や乳腺が浸され不妊症の原因となることもあります。小児にとっては髄膜炎（脳炎）が重要な合併症で、その発生率は30%にもおよぶという報告もあります。

併症で、その発生率は30%にもおよぶという報告もあります。

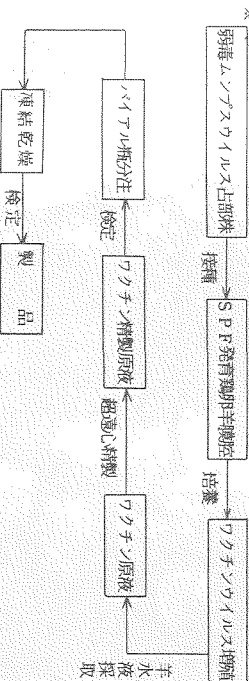
このようなやっかいな合併症を伴なう、おたふくかぜを予防する生ワクチンの完成が永い間望まれていました。

おたふくかぜ生ワクチン

製法

ワクチンには生ワクチン（ウイルスや細菌が生きている）とこれらをホルマリンなどで殺した不活化ワクチンがあります。一般的に生の方が免疫力を高く

図1. 製造工程略図

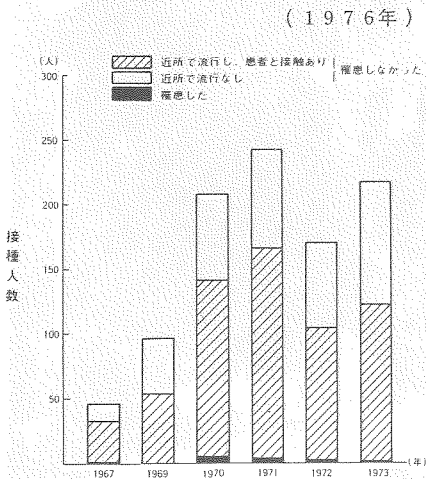


※

アメリカでの研究と殆んど同じ頃、阪大微研で始められました。研究の過程で、患者から分離されたウイルスを弱毒、安定化させた占部株ウイルスです。

ムンプスワクチン研究班（文部省試験研究）・ムンプスワクチン研究会（厚生省特別研究）で10年間にわたり全国10数ヶ所の研究機関で基礎的および臨床試験がおこなわれました。

図2. 生ワクチン接種後の罹患調査



（奥野良臣 ムンプスワクチン

最新医学 第32巻 第9号1977年9月より）

つけます。生おたふくかぜワクチン「ビケン」は、図1の如く製造されます。ウイルスは生物の中で一番小さいので、細菌と異り自分の力で栄養物をとって増殖することができず、生きた細胞に宿って増殖します。

効果と副反応

図2は、一九六七年から七三年までにワクチンを接種した子供が一九七六年までにおたふくに罹患したかどうかを調査した成績です。調査できた九九八名中、半数以上の人が近所でおたふくかぜの流行があり、その殆んどの人が患者と接触したにもかかわらず罹患した人は一人でありました。毎年かなりの人が罹患することを考えると防禦効果の-highことがわかり、特別に接種しております。

て、一回の接種によって終生の免疫が出来るものと考えられます。副反応は、殆んどないといつても良いのですが、まれに発熱、耳下腺腫脹、などの症状がでることがありますが、症状は軽度で、通常数日中に消失します。

接種対象と時期

生後12ヶ月以上の者であれば性・年令に関係なく、そして時期を問わず随時接種できます。

接種時の注意と禁忌

ワクチンの取り扱い扱い、接種する時の注意、そして禁忌などは生はしかワクチンと同じです。

大阪大学附属病院小児科では禁忌の項にある基礎疾患に罹っている者こそ、種々の感染症から防禦する必要があるため、特別に接種しております。